



日本遺産

やばけい遊覧

大地に描いた山水絵巻の道をゆく

大分県 中津市・玖珠町

日本遺産認定ストーリー

やばけい
耶馬溪とは、

やまくにがわ

山国川が溶岩台地を深く浸食して

つくりだした奇岩の溪谷で、

なかつ

中津・玖珠の二つの城下町に

挟まれています。

南北32km東西36kmの敷地に、

断崖、岩窟、溪流が

大パノラマをつくり、

その深く神秘的な地形は

伝説と祈りの場所となりました。

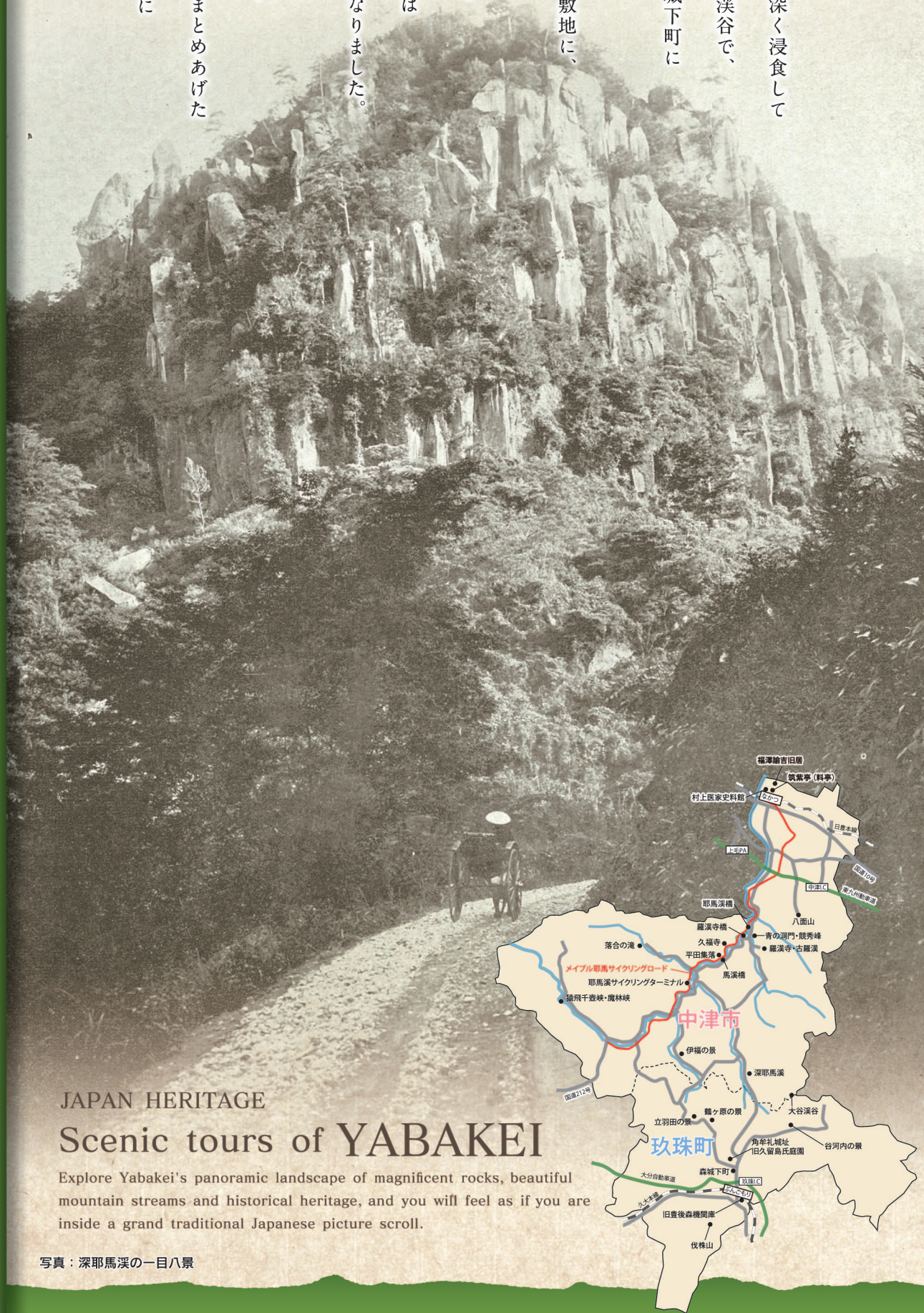
人々が時をかけ

岩を削り想いを描き、

一本の絵巻のようにまとめあげた

「耶馬溪」の遊覧の旅に

出かけましょう。



JAPAN HERITAGE

Scenic tours of YABAKEI

Explore Yabakei's panoramic landscape of magnificent rocks, beautiful mountain streams and historical heritage, and you will feel as if you are inside a grand traditional Japanese picture scroll.

写真：深耶馬溪の一目八景

耶馬溪(やばけい)

江戸時代、頼山陽によって名付けられた景勝地。66景からなり、大正12年に国名勝に指定されました。



巨石伝説の山

八面山

はちめんざん

海

海 辺の城下町中津を出発します
目に入るテスル状の山は、耶馬溪の入口、様々な伝説を持つ巨石が群をなす霊峰「八面山」です。修験の滝や奇岩を巡り頂に登れば、北は中津平野と周防灘、南は耶馬溪～玖珠の山々まで、広々とした眺望が開けます。約1000年前の平安時代より、八面山を中心に、古代仏教文化が花開き、人々は周辺の岩屋に仏を安置していました。

古代信仰の石舞台
畳152枚敷の広さ！



八面山から見た夜明け

絶壁をつたい仏に会う

羅漢寺・古羅漢

らかんじ

ふるらん

八 面山から望む岩山を目指し、参道の細く長い石畳の先に岩窟の寺院「羅漢寺」があります。羅漢寺と、対岸に盛り上がるごつごつとした峰「古羅漢」の探勝道では、人々は二千体の石仏を彫り、仏の教えを伝える意味をもたせて配しました。天然の石橋や岩窟、岩肌に巡らせた鎖をつたい登れば、約650年前の室町時代に彫られた日本最古の五百羅漢石仏が迎えてくれます。山腹に中津藩主がしげつあん築いた「指月庵」庭園は、文人画人達が眺望を愛でつつ酒を酌み交わし創作をする場でもありました。

【羅漢寺】

1338年開山の日本国内の羅漢寺の総本山。山全体に配置された無数の石仏、天然の石橋や窟をたどることで仏教の教えを体感できる探勝道となっている。



岩窟の寺院 羅漢寺

岩窓にさす光、断崖からの眺望

青の洞門・競秀峰

羅漢寺から下った山国川沿いには、屏風を立て並べたように折れ重なる巨大な岸壁「競秀峰」が現れます。この岩壁沿いの道から川に落ち命をなくす人々を救うため、約200年前の江戸時代、「禅海和尚」は30年かけてトンネル「青の洞門」を掘りました。岩窓からさす光に照らされた無数のノミ跡から和尚の熱い想いが伝わる洞門の暗がりを抜けると、競秀峰の尾根道から見渡す眼下に断崖と溪流が織りなす絶景が広がります。ここは「福澤諭吉」が土地を買って開発から守った景勝地です。

尾根づたいの探勝道



【青の洞門】18世紀、川の栈橋から落ち命を落とす人々を見て、羅漢寺の禅海和尚が村人とともに30年かけほりあげたトンネル。対岸から見る絶壁に並ぶ岩窓と洞内の岩窓から覗く景色が楽しめる。県史跡。



【競秀峰】諭吉が守った景観。山国川右岸に起立する岩峰群は約1kmに渡る。尾根道からは大迫力の絶景が！

構成文化財

名勝耶馬溪
八面山と八面山探勝道
羅漢寺と羅漢寺探勝道

ふるらん
古羅漢と古羅漢探勝道
あお どうもん
青の洞門関連遺産
さようしゅうほう
競秀峰と競秀峰探勝道

ふくざわ
福澤家土地台帳



【古羅漢探勝道】羅漢寺対岸の霊峰。こつこつした岩山が盛り上がる異様な景観。岩をはい、鎖をつたい、窟や、お堂、石仏、石塔などをまわる。



耶馬溪橋(オランダ橋) 日本一長い石造アーチ橋 県有形

もっと知りたいなら…



福澤諭吉旧居・福澤記念館
大分県中津市留守居町
586番地
TEL.0979-25-0063
福澤諭吉が景観を守った証拠の資料を展示



耶馬溪風物館
大分県中津市本耶馬溪町
曾木2193の1
TEL.0979-52-2002
羅漢寺、青の洞門の資料を展示。



川

沿いの青の洞門を発ち玖珠へ向けて奥深く分け入ると、岩峰が覆いかぶさるように迫る溪谷に入ります。ここは約120年前の明治時代、中津出身で玖珠郡長の「村上田長」が困難を乗り越え中津と玖珠をつなぐ道路を開鑿して姿を現した秘境「深耶馬溪」です。切り立った奇峰に八方ぐるりと囲まれる「一目八景」、いくつもの一枚岩の滝が連続し薄暗い谷底から見上げる細い空に岩峰がそびえる「麗谷」や「大谷溪谷」の神秘的な空間は「天下の勝地」と呼ばれ新しい観光地となりました。

岩峰せまる神秘の谷

深耶馬溪

しんやばけい



一目八景は深耶馬溪の中心部で、土産物屋や茶屋が並ぶ。一か所にいて八方を奇怪な岩峰に囲まれることから一目八景と呼ばれる。



構成文化財

でんちょう
村上田長関連遺産
ひとめはっけい しんやばけい
一目八景と深耶馬溪探勝道

谷河内の景



水晶の滝

【麗谷探勝道】麗谷の谷底を歩く上級者向けの探勝道でいくつものスリッポンのような滝が連続し神秘的な風景が展開する。

ここからのみ通行できます
上級者向け



【大谷溪谷】一枚岩の浅瀬が10km続く谷で、初心者でも沢歩きが楽しめる。



一目八景の鷹ノ巣山



村上医家史料館
大分県中津市1780番地(諸町)
TEL.0979-23-5120

村上田長の住居

もっと知りたいなら...

細

くほの暗い深耶馬溪を抜け視界が突然開けると櫛^{くし}歯^は状の断崖^{おのがんせんざん}「大岩扇山」が出迎え、日本一小さな城下町とよばれる「角埋山^{つのむれさん}」麓の森城下町に辿りつきます。明治時代の大火を乗り越え100年前耶馬溪観光の出入口として再興した城下町の中心は、城の構えを持つ神社に、巨石を大胆に展開する藩主の庭園。奇峰の谷から一転「伐株山^{きりかぶさん}」をはじめとしたテーブル状の山並みに包まれると巨大な箱庭に迷い込んだ心地がします。



【旧豊後森機関庫】久大線のほぼ中間地にあり昭和9年の全線開通と同じ年に竣工した。



羅漢寺土産でもあった素朴な栗まんじゅう

【森城下町】久留島氏が整備した城下町。明治の大火で被災したが、玖珠郡庁が置かれ玖珠盆地をささえる商業都市となった。大正時代、耶馬溪観光の入口としても栄えた。町には豪商の粕屋、酢屋等、明治末～大正期の歴史的建造物が残る。

構成文化財

森町の庭園とテーブルマウンテン
森町の町並み
森町の栗まんじゅう



テーブルマウンテンに囲まれた町

玖珠の森城下町



【角牟礼城跡】旧久留島氏庭園はこの城跡の麓にある。展望所からは伐株山をはじめとしたテーブルマウンテンに包まれる玖珠盆地が一望できる。縄文系の石垣が残る国史跡の城跡。

【旧久留島氏庭園】小藩ゆえに城をもてなかった藩主が城郭のように再興した神社と御殿に配置した庭園は、約100年前耶馬溪観光の入口として玖珠町の中心的な観光ポイントとなる。庭園は国名勝。



栖鳳楼庭園



清水御門御茶屋庭園



藩主御殿庭園から大岩扇山を望む

【伐株山】玖珠町で最も有名な「伐株山伝説」の舞台。山城だった山頂からはテーブルマウンテン(頂上がテーブルのように平らな山)に囲まれた玖珠盆地が一望でき、遠く中津市の八面山まで望める眺望は初三郎の鳥瞰図そのもの。パラグライダー基地で体験飛行も。



鶴ヶ原の景



【猿飛千壺峡～魔林峡遊歩道】山国川の源流近く、急流によって川の中の石が回転し、川底に無数の穴があった甌穴（おうけつ）が群をなす不思議な景観。下流側の魔林峡から上流の猿飛千壺峡まで川沿いに遊歩道があり、石橋や吊り橋を渡りながら楽しめる。

構成文化財

裏耶馬溪の景観

河童祭り

耶馬溪温泉

さるとびせんつぶきょう まばやしきょう
猿飛千壺峡～魔林峡遊歩道



落合の滝

石柱が天を突く河童の隠れ里

裏耶馬溪・奥耶馬溪

うらやばけい

おくやばけい



【裏耶馬溪の景観】によぎによぎと天にのびる細長い岩峰のすぐ近くに集落が広がる「伊福の景」や「立羽田の景」は、南画的風景が魅力。平家の落人の伝説が残り、後藤又兵衛が身を隠したと言われる竈ヶ窟や又兵衛の墓がある、耶馬溪の中のさらなる「かくれ里」である。

森

城下町から西に回遊すると、によぎによぎと伸びる石柱群の裾に集落が寄り添う「裏耶馬溪」に到着し、さらに西へ山国川を遡った先の源流の地「奥耶馬溪」では、石が何万年もの時をかけ川底に穴をあけた甌穴群（おうけつぐん）の水辺が続きます。川の音しか聞こえない自然の中の温泉と暖かなすっぽん料理が旅人を癒し、奥深い谷や岩窟は落人伝説を生み、あちこちの谷で平家の落人が子河童となり登場する河童祭りが伝えられています。のどかな楽の音にのり飛び跳ね、いたずらをしてはカラフルな大団扇（おおうちわ）で追い詰められる子河童たちが住む里です。

【河童祭り】河童となった平家の落人の霊を慰めるために始まったといわれる秋祭り。中津と玖珠にまたがって谷々で伝えられている。いたずらをする子河童を大団扇（おおうちわ）で追いめこらしめる。



馬溪翁の町

平田集落

うした耶馬溪の歴史・文化を熟知し耶馬溪に尽した「平田吉胤」は、大正時代、平田集落に駅や郵便局を建て石橋をかけ水路を引き寺社を復興し耶馬溪の中心集落として作り上げました。「馬溪翁」と称された吉胤は、町づくりの仕上げに二階建ての自宅に三階をのせ景観を見せる場としました。耶馬溪の迎賓館でもあった三階の間の窓は広々と三方に開かれ、窓越しに見る平田氏のものだった山々は座敷の障壁面のようにです。



岩窟に建てられた久福寺観音堂



【平田家住宅】

耶馬溪の名勝指定にも貢献した平田吉胤の住宅。周辺の景観を見せて客をもてなすために三階を増築した。耶馬溪の迎賓館的役割をもち、三階の間は三方全面が窓として開け、かつて平田家の土地であった山々が窓越しに障壁面のように展開する。(通常非公開)



サイクリングロード
(旧耶馬溪鉄道線跡)

城井八幡社
(中世の野仲由来の神社)



平田吉胤頌徳碑

旧平田駅プラットホーム
国登録有形文化財

旧平田郵便局
(大正時代の木造建築)



平田城跡：中津市指定史跡
(黒田24騎の1人、栗山善助の城)

平田家住宅
国登録有形文化財
(大正時代の木造3階建て)



西浄寺
(大内義隆直筆の扁額)

馬溪橋：中津市指定有形文化財
(大正時代の石橋)

【平田集落の町並み】

平田吉胤は自宅のある平田集落に駅(平田駅ホーム)を作り、郵便局(旧平田郵便局)を他から移転させ、石橋(馬溪橋)をかけ、水路をひき、小学校(旧城井小学校)を整備し、寺社(城井八幡社・西浄寺・久福寺)を復興・再建させ、平田を耶馬溪の中心集落につくりあげた。平田氏の土地であった平田城址からは吉胤がつくった平田集落が一望できる。

【馬溪橋】

大正12年完成の長さ日本4位の5連橋。平田吉胤が架けさせた橋。この橋により平田集落への周回ルートができた。平田集落の対岸から、溪流に五連の影を落とす美しい景観を見ることができる。

構成文化財

ひらたよしたね
平田吉胤関連遺産
平田集落の町並み



一つになった耶馬溪

古 来より文人画人を惹きつけ、あまたの絵が、詩が、文学が生まれた溪谷で、奇岩奇峰に包まれ暮らす人々は、岩から仏、寺院、石橋、庭園…と優れた作品を生み出し、大地に配していきました。トンネルを掘り、道を開き、観光列車「耶馬溪鉄道」をひき、探勝道を巡らせ、日本一の長さを競う石のアーチ橋を次々と架けることでそれぞれの作品を回遊路で一つにつなぎ、自由に廻れるようにした大正時代の終わり、ついに天下無二の芸術作品「耶馬溪」が完成しました。中津駅周辺には料亭が建ち並び、翌朝から耶馬溪へ発つ観光客は鰻料理をはじめとした豊前海の魚に舌鼓を打ち、霊泉(温泉)巡りツアーも開催されました。平家の落人が伝えた蕎麦は耶馬溪名物となり、溪谷の茶屋では蕎麦をゆでる湯気が立ち上るようになりました。さらに、昭和初期の豊後森駅開業で新たな耶馬溪の玄関口ができ、玖珠町側からも回遊できるようになりました。



吉田初三郎「天下無二耶馬全溪の交通図絵」



厚ヶ淵トンネル



明治の木製客車(SLレストラン汽車ボツボ)



旧耶馬溪鉄道線路跡のサイクリングロード



羅漢寺橋 長さ日本3位の県指定三連橋



巻柿 江戸時代からの耶馬溪土産



耶馬溪すっぽん料理



中津の鰻料理

このように耶馬溪には100年前の大正時代の観光客が楽しんだ山水画のような景観、温泉、無数の探勝道がちりばめられています。文人画人が舌鼓を打った川魚や猪鹿料理、巻柿や羅漢寺土産だった栗饅頭を楽しみながら、中津から玖珠へ、玖珠から中津へ。自動車・自転車・自らの足で、大地に描かれた山水絵巻に入り込み、空から谷底から、回遊路を巡りまた次の探勝道へ。時をかけ季節をかわて、次々と場面が展開する耶馬溪遊覧の旅をお楽しみください。

構成文化財

旧耶馬溪鉄道関連遺産

ちくして
筑紫亭

「天下無二耶馬全溪の交通図絵」

耶馬三橋(①耶馬溪橋 ②羅漢寺橋 ③馬溪橋)

中津の鰻料理

猪鹿料理

ふんごもりえき

豊後森駅関連遺産

やまくにやりよかん
山国屋旅館

こうつうすえ

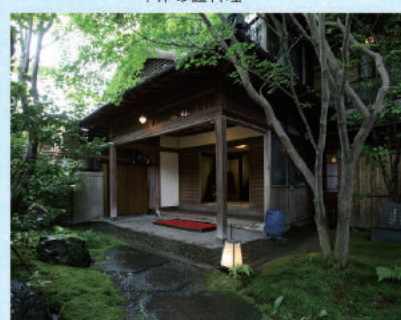
耶馬溪すっぽん料理

まきがき

巻柿



パラグライダー



筑紫亭(明治~大正期の料亭)

発行: 中津市教育委員会社会教育課文化財室

TEL 0979-22-1111

平成29年6月印刷